

## 同心番所（衛兵詰所）

この警護の詰所は、徳川将軍時代（1603～1867）から残存する3つの詰所のうちのひとつです。同心として知られ

る、巡査に相当する下級武士によって警備されていたためこの名がつけました。同心の職務は城を訪れる人々の検問

と、主人の本丸からの戻りを待つ大名たちの従者らを見張ることでした。屋根瓦には、3つの異なる紋を観ることができ

ます。葵の御紋は、徳川家の家紋です。その他には天皇家の菊の御紋と、3つのコンマが渦を巻く三つ巴の御紋があり

ます。三つ巴の御紋の成り立ちは平安時代の終わりにまで遡り、またそれが水を象徴することから火災除けにも使われ

ました。

## 写真の説明

1. 入場する大名。橋の足元にある建物が同心番所です。

「徳川盛世録」からの詳細（国立国会図書館）